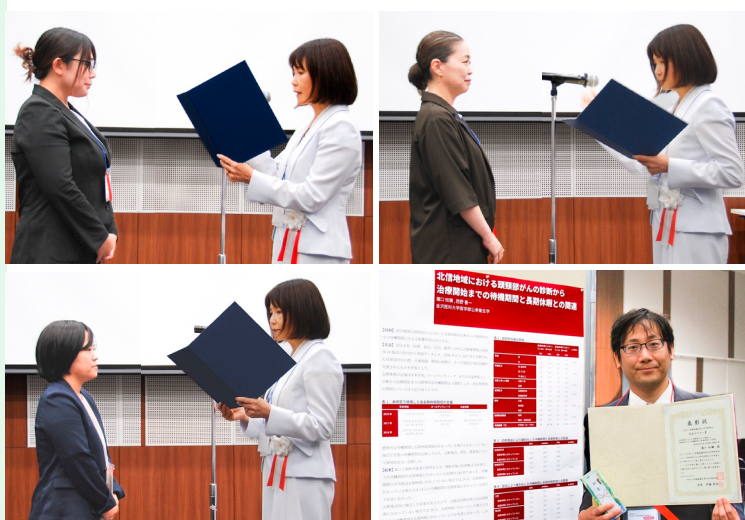


特別ポスター賞のご紹介

第34回日本がん登録協議会学術集会には、一般演題として口演・ポスターあわせて59演題という、例年にも増して多数のご登録をいただきました。日々業務や研究に取り組まれている皆様が、それぞれの課題意識をもって実施された報告や成果をこの場で発表してくださったことに、学術集会長として心より御礼申し上げます。

今回の学術集会では、第32回学術集会に倣い、学術委員会が選考する「最優秀口演賞」「優秀口演賞」「最優秀ポスター賞」「優秀ポスター賞」に加え、学術集会長の推薦により、プログラム委員とともに選出する「特別ポスター賞」を設けました。



この賞は、がん登録室の皆さんが日々工夫しながら積み重ねている業務の知見や、今後の発展が期待される研究報告を評価することで、がん登録室の活動や研究のさらなる活性化につなげたいという思いから創設されたものです。学術集会の準備段階からプログラム委員の皆様にも趣旨にご賛同いただき、正式に表彰として実施することができました。

今回はポスター発表演題の中から、プログラム委員による評価をもとに、特に注目すべき内容を発表された演題を選出し、「院内がん登録」「全国がん登録」それぞれの分野における研究成果・活動報告から、以下の4演題が特別ポスター賞を受賞しました。筆頭演者の皆様、おめでとうございます。

●「各施設版から改良した、県内多施設で共有できる『院内がん登録・国がん提出前チェックリスト』の作成」
檜崎 千明さん（独立行政法人国立病院機構四国がんセンター医療情報管理室）

●「市町村による全国がん登録情報の活用支援における集計方法」
佐藤 洋子さん（宮城県立がんセンター 宮城県がん登録室）

ITO Hidemi
伊藤 秀美

愛知県がんセンター
JACR 理事（教育研修委員長）



●「北信地域における頭頸部がんの診断から治療開始までの待機期間と長期休暇との関連」

瀧口 知彌先生（金沢医科大学）

●「COVID-19の蔓延が日本の癌罹患数に与えた影響」

田中 里奈先生（弘前大学）

檜崎さんの発表は、国がん提出前の目視確認項目を共通化し、実務者の経験の違いによる記録の揺れや精度の偏りを減らすことを目的に、既存のリストを整理・改良して誰もが使いやすいチェックリストを作成した点が実践的でした。リストは、登録ルールの再確認や教育的な補助機能も果たす内容となっており、今後の継続的な更新による活用の広がりも期待されます。

また、佐藤さんの発表は、宮城県では活用が進んでいなかった19条の申請を市町村に代わってがんセンターが一括して行い、分かりやすいリーフレットや詳細集計表を効率的に作成・提供することで、自治体による情報の利活用と公表を後押しした点が高く評価されました。

瀧口先生は、北信地域における院内がん登録情報を用い、頭頸部がん患者の待機期間が長期休暇の影響を受けていることを明らかにしました。この知見は、今後の診療調整や医療リソースの配置に直結する実践的な成果といえます。

田中先生は、全国がん登録の公表データを用いて罹患数の変動を捉え、COVID-19 パンデミック後の影響を定量的に分析しました。これにより、がん検診の重要性や医療アクセス維持に関する課題が浮き彫りとなり、社会的にも意義のある成果として評価されました。

今回の学術集会での発表を通じて、日頃の取り組みや工夫、研究成果が多くの参加者に共有されたことを嬉しく思います。いずれの演題も、現場の実践と課題意識に根ざした内容であり、今後もこうした発表の機会が実務や研究の一助となり、がん登録業務やがん登録情報を活用した研究活動が継続的に発展していくことを願っております。

